

大規模補習授業校における校内研究の推進

—— 教員の資質能力の向上と人材育成の視点から ——

前デトロイトりんご会補習授業校 教頭

宮城県岩沼市岩沼西中学校 教諭 齋藤友靖

キーワード：大規模補習授業校、校内研究、人材育成、授業力向上、人間関係力

1. はじめに

デトロイト補習授業校の児童生徒数は、小学部と中学部を合わせ、751名（2018年4月14日）であり、世界で4番目の規模である。これに、幼稚園部、高等部を加え、年間を通して、940名程度（2018年度）が在籍する。

ここに、3年間にわたるデトロイト補習授業校での校内研究推進の取り組みを振り返り、教員の資質能力の向上と人材育成の視点でまとめ、その概略を紹介したい。

2. 教員の資質能力の向上と人材育成の視点

年間授業日42日間という限られた授業時数の中で、様々な制約がありながらも、やはり教師として専門的に要求されるものは授業の質と子どもたちの変容ではないだろうか。「教師は授業で勝負」、「教師は授業がすべて」などとも言われる。授業を通して子どもたちとの信頼関係が生まれ、その信頼関係は良い授業を更に創り出し、そのプラスのスパイラルが子どもも教師も成長させていくと考える。また、教師の仕事は、子どもとの関係、保護者との関係、同僚や管理職との関係という多様な人間関係に関わる仕事である。相手を選ぶことのできない状況の中で、教師は、相手がどのような人であっても限られた時間の中で信頼関係を築いていくことができる資質、能力が求められていると考える。

3. デトロイト補習授業校の校内研究

研究主題：「めざす子ども像」の具現化を図る保育・授業の在り方を探る。

～子どもが主体的に活動・学習に取り組む手立ての工夫を通して～

校内研究においては、保育・授業実践を通して、個に応じた支援を工夫しながら、子どもの力を引き出し、伸ばしていくことを全体で確認し、そのために、保育・授業の公開や参観を通して互いの実践を共有し、振り返りでの話し合いを充実させながら、講師が主体的に授業改善を図れるようにしたいと考えた。また、保育・授業の公開や参観を通して、講師間のつながりを構築しながら、各授業や学級の雰囲気を知り、今後の授業改善や学級経営に生かしていくことも期待している。

4. 年間63回の公開授業と振り返りの実施

年間を通して、常勤講師は1人1回の公開授業を行い、校長、教頭は全ての公開授業と振り返りに参加する。校長、教頭共に授業日は他の行事が入り多忙ではあるが、公開授業への参観と振り返りへの参加をするための時間を第一に優先して授業日の予定を立てる。年間を通して、以下の主な経緯で校内研究を推進した。

① 指導案作成にあたっての指導、支援、相談の実施

公開授業2週間前を目途に提出された指導案について、教務主任、教頭が授業者の意図を組みながら、授業づくりへの助言や指導案の添削を行う。

② 公開授業の参観

同学年、同教科の講師、または、参観希望の講師も参観できるように、当日、代替講師が必要な場合は、臨時（非常勤）講師を配置するなど調整を図る。

③ 振り返りでのフィードバックと支援、指導の実施

振り返りの視点を「個に応じた支援の工夫」や「研究主題との関連」などとし、授業を通して、授業者の指導力が生かされている具体的な点（良さ）について丁寧に価値付けしながら説明し、授業者の今後の意欲につなげていく。

④ 校内通信を活用した授業改善意欲につながる周知の徹底

毎週発行する校内通信に全公開授業の振り返りと校長所感を記載し、全講師で情報を共有していく。授業展開や手立ての工夫、個別支援の工夫、めざす子ども像に迫る子どもの姿、学級経営など、授業者の優れた授業内容について記載する。そのことで、授業者自身の自信と他の講師への良い刺激となり、学校全体の授業力向上への意欲につなげていく。

⑤ 授業実践集としての保存と共有

講師は、公開授業と振り返りを経て、考察を提出する。指導案と考察シートを学部ごとにまとめ、全講師が閲覧できるよう校内ドライブにアップロードし、共有を図る。そうすることで、校内研究の取り組みが、全体の一步であることを実感すると共に、次年度の実践に生かせるようにする。

5. まとめ

上記①～⑤のような日常的な取り組みは、この3年間で確実に管理職と講師、講師間の良好な関係を構築し、学校全体の授業改善への意欲の向上と子どもの確かな成長につながっていったと実感している。また、校内研究への取り組みを通して、講師一人ひとりの授業づくりへの真摯な姿勢や学ぼうとする意識の高さも目の当たりにした。

管理職との間や講師間の人間関係は学校風土に大きく影響する。授業を通してつながる人間関係とでも言えようか、3年間積み重ねてきた公開授業や振り返りでの意見交換によって、自分の指導法や学級経営に関心の強かった講師も、他の学級経営や授業改善に課題意識を持ち、校長、教頭、教務主任へ相談するようになり、同時に学年、教科内の講師同士の連携にもつながっていった。公開授業は大変だけどやってみたら良かったという実感や授業を通して感じた講師としてのやりがいや手ごたえが自信や誇りとなり、教育実践の持続、発展につながるのだと考える。

3年間で積み上げてきた中で、まだ課題も多いが、今後も、授業を通して教師力、人間関係力の向上を図りながら、子どもも教師も成長する「チームデトロイト補習授業校＝チームJSD」であることを願っている。

6. おわりに

デトロイト補習授業校に勤務した3年間は、子どもたちや先生方をはじめとする、たくさんの人との素晴らしい出会いがあり、私にとって大変実りある研修となった。当地で日々の教育活動を行うにあたり、多大なるご支援、ご理解ご協力を頂いた、在デトロイト日本国総領事館、デトロイト日本商工会、デトロイトりんご会理事運営委員会、父母会、そして、毎週土曜日を迎えるためにご尽力頂いている事務局、教職員の皆様に、改めて感謝申し上げたい。ありがとうございました。

今後は、在外教育施設派遣という貴重な経験を、日本での職務に必ずや役立てていきたいと考える。